

令和 8 年度 大津市立南郷小学校いじめ防止基本方針

はじめに

2011 年（平成 23 年）の市内中学生が自ら命を絶たれた痛ましい事案以降、このような悲しみを再び繰り返してはならないという強い決意のもと、南郷小学校においては、いじめ防止対策推進法（以下「法」といいます）、大津市子どものいじめの防止に関する条例（以下「条例」といいます）、大津市いじめの防止に関する行動計画に基づき、いじめの「未然防止」「早期発見」「早期対処」を柱に、いじめ問題に対する対策を進めてきました。

条例には、以下のような基本理念が定められています。

「全ての子どもは、かけがえのない存在であり、一人一人の心と体は大切にされなければなりません。子どもの心と体に深刻な被害をもたらすいじめは、子どもの尊厳を脅かし、基本的人権を侵害するものです。しかしながら、いじめはいつでもどこにおいても起こりうると同時に、どの子どももいじめの対象として被害者にも加害者にもなり得ることがあります。このようないじめを防止し、次代を担う子どもが健やかに成長し、安心して学ぶことができる環境を整えることは、全ての市民の役割であり責務です。」

この基本理念に則り、南郷小学校では、過去の反省を忘れることなく、子どもの声や主体性を大切にしながら、地域社会全体で、いじめ対策に取り組んでいくことが重要であると考え、本校のいじめ防止基本方針を定めました。

全ての子どもたちが安心・安全に学校生活を過ごす事ができ、一人ひとりの笑顔が輝く学校づくりを進めるためにも、学校組織全体で、以降に示す取組を進めます。

目次

1	いじめ問題に関する基本的な考え方・・・・・・・・・・	p 2
	（1） いじめの未然防止	
	（2） いじめの早期発見	
	（3） いじめへの対処	
2	「いじめ対策委員会」の設置・・・・・・・・・・	p 7
	（1） 役割	
	（2） 構成員	
	（3） 関係する校内委員会等との連携	
	（4） いじめ事案対応フロー図	
3	その他いじめの防止等のための対策に関する重要事項・・・・・・・・	p 9
	（1） 基本方針、年間計画の見直し	
	（2） 基本方針、年間計画の公開・説明	
4	いじめ防止等に向けた年間計画・・・・・・・・・・	p 9

1 いじめ防止等のための対策の基本的な考え方

いじめ問題に取り組むにあたっては、「いじめ」にはどのような特質があるかを十分に認識し、日々「未然防止」と「早期発見」に取り組むとともに、いじめが認知された場合の「早期対処」に的確に取り組むことが必要であると考えます。法では、「いじめ」を以下のように定義されています。

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

本校では、このいじめの定義に基づき、「未然防止」「早期発見」「早期対処」に関する以下の内容について、組織的に進めます。

(1) いじめの未然防止

いじめはどの子どもにも、どの学校でも、起こりうるものであることを踏まえ、より根本的にいじめの問題を克服するためには、すべての児童を対象としたいじめの未然防止の観点が必要です。

このため、本校では、すべての児童が、より良い人間関係を構築できるような態度を育むことで、いじめを生まない環境づくりを進めます。また、家庭、地域その他の関係者に対し、学校での取り組み内容を説明し、協力を求めることで、地域社会が一体となった取組を進めます。

取組の基本となるのは、児童が、周囲の友人や教職員と信頼できる関係の中、安心・安全に学校生活を送ることができ、規律正しい態度で授業や学校行事に主体的に参加・活躍できるような授業づくりや集団づくり、学校づくりを行っていく事であると考えています。学校のあらゆる教育活動の中で、すべての児童が自己存在感を感じ、自己決定の場を与えられ、共感的関係を育てる機会を設けることを大切にし、互いを認め合える人間関係・学校風土の醸成に努めます。加えて、児童自らがいじめについて学び、取り組む等の自主的・自治的な活動を積極的に支援し、児童一人ひとりが主役となる学校づくりも進めます。

そうした未然防止の取り組みについては、日常的な児童の行動の様子や欠席の状況を把握し、その状況に応じ、随時見直しを図ることで、より充実した取組を進めます。

については、上記のことに関して、本校では、以下のような取組を進めます。

① 子どもの主体的な参画

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
34	いじめ防止啓発月間を中心とした子ども主体の取組の推進	・児童会を中心とした朝のあいさつ運動を行う。 ・「1年生を迎える会」「6年生を送る会」「交流遊び」「スマイルデー・スマイルウィーク」などの企画・運営。 ・代表委員会の話し合い活動を充実させる。（各学級の

		課題を話し合い、全校で共有し、委員会が主体となって解決に向けて自治的な活動に取り組む。） ・ いじめ防止やよりよい学校生活の創造を目指して、児童の自主活動として結成した NSV（南郷スマイルボランティア）が、いいこと見つけの全校放送をしたり、学校生活の安心安全を啓発する劇をしたりする。
35	学校・学級及び個人のいじめ防止に関する取組目標の設定	・ いじめ防止に関する標語、ポスターを作成する。（6月と10月のいじめ防止啓発月間を中心に） ・ 4月に児童会目標を代表委員会で児童会を中心に設定する。その際、学級から出た案をもとに、6月と10月のいじめ防止啓発月間を含む毎月の生活目標を設定する。

② 子どもに対する教育・啓発

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
36	いじめが許されないことを理解し、子どもの解決力を育むための教育の推進	・ 具体的な事例などをもとに、何がいじめにあたるのかを考える。 ・ どのような行動をとればよいか具体的対処の方法を教える。 ・ 人を傷つける言葉や行動（菌タッチなど）が広がらないよう、一人ひとりが気づき、止める意識を育てる。 ・ 専門家によるいじめ問題や人権教育等に係る授業を実施する。
37	インターネット上のいじめ防止を含む情報モラル教育の実施	・ 携帯電話会社講師による情報モラル教室を実施する。
38	相談することの大切さに関する啓発	・ 各学級での相談会を実施する。 ・ いじめ防止啓発月間を中心に全校に向けて、放送などで相談の大切さを呼びかける。
39	子どもの心を豊かにする道徳教育の推進	・ 道徳科の中で、「いじめ」の視点をもって授業を行う。 ・ 日常生活の中でも読書などを通して言葉や感性を磨き、コミュニケーション能力を高める。
40	自他ともに認め合う人権教育の推進	・ 自分や他の人の大切さが認められていることを子ども自身が実感できる環境づくり。 ・ 学級会を通して、互いの意見の良さを認め合いながら課題を解決する素晴らしさを学ぶ。 ・ 特別支援理解教育の実施。

41	分かりやすい授業づくり・子どもの存在や意見が尊重される学級づくりの推進	・一人ひとりが大切にされる授業づくりに努める。 ・少人数グループでディスカッションを導入した学習を推進する。 ・互いの意見が尊重される学級会の推進。
42	思いやりの心を育てる異年齢交流の推進	・保幼小中の連携を図る。 ・５・５交流や小中連絡会を実施する。 ・特別活動を中心に、縦割り活動を行う。

③ 教員に対する研修・支援

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
43	学校いじめ防止基本方針の策定、保護者・地域への周知	・学校のホームページでいじめ防止基本方針を公表する。 ・学校便りやホームページなどを活用して周知を図る。
44	保護者・地域に向けた子ども支援コーディネーター等学校への相談の呼びかけ	・学校便りやホームページなどで子ども支援コーディネーター等の周知を図る。 ・時期に応じて教育相談だよりやホームページなどで相談の呼びかけを行う。
45	いじめ対策に関する校内研修の実施	・いじめ防止基本方針を配布し、共通理解する。 ・年度当初や学期はじめなどに校内研修を実施する。
46	いじめ事案への対応体制の整備及びいじめ事案に対応する教員への組織的な支援の充実	・学校内のいじめ事案の把握に努め、全教職員が共通理解を図る。 ・いじめ事案を抱える教員に対しての指導・助言を行う。 ・定期的にいじめ対策委員会で事案の共有を図る。 ・共通の報連相シートを活用することで、事案に対して教員が共通理解を図れるようにする。

④ その他（学校独自の取組）

取組目標
・『ホタルの学校』の講師による地域や命を大切にすることについての授業を実施する。 ・児童主体のボランティア団体である『NSV（南郷スマイルボランティア）』が、安心・安全な学校づくりに向けて自主的な活動を行う。

＊学校いじめ防止基本方針は、「大津市いじめの防止に関する行動計画」に位置付ける取り組みのうち、学校が実施する施策の取組目標を記載しています。NO. 1～33の取り組みは、市・市教育委員会が実施する施策です。

(2) いじめの早期発見

いじめは、大人の目に付きにくい時間や場所で行われたり、遊びやふざけあいを装って行われたりするものです。しかしながら、いじめやその疑いを見逃してしまうと、より深刻な状況を招いてしまいます。そのようなことから、本校では、たとえささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階から学校のいじめ対策委員会が中心となり積極的に対応します。

そのためには、多くの大人が児童の小さな変化に気づく、鋭い観察力を高めることが必要です。このため、本校では、日頃から児童の様子をしっかりと見守り、教職員間で定期的に共有します。わずかな兆候であっても、背景にいじめがあるのではないかとの疑いを持って、いじめ対策委員会で対応について協議します。その上で、いじめを軽視することなく、事実関係に基づいて積極的に認知します。その際、個々の行為がいじめに当たるか否かの判断は、表面的・形式的にすることなく、いじめを受けた児童の立場に立って行います。

また、児童または保護者が、抵抗なくいじめに関して相談できるよう、学校は、定期的なアンケート調査や定期的な教育相談を実施し、いじめの実態把握に取り組みます。それとともに、児童または保護者が日頃からいじめについて相談しやすい雰囲気づくりに努めます。また、学校が家庭と緊密な連携をすることにより、学校と保護者との間の情報共有をし、児童生徒の状況をきめ細かに把握するよう努めます。

加えて、より多くの大人が児童の悩みや相談を受け止めるため、保健室や相談室の利用、関係機関の開設している相談窓口について広く周知するとともに、地域関係団体や保護者に対しても協力を求めます。

については、上記のことに関して、本校では、以下のような取組を進めます。

① いじめに関する情報収集

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
47	いじめ等の早期発見のための定期的なアンケート調査の実施	・生活アンケート（6月、10月、2月）を実施する。 ・2月はいじめに特化したアンケートを実施する。 ・調査結果を学校内で共有し、検証する。
48	いじめ等の悩みの把握及び教育相談の実施	・アンケート調査結果において気になる点があった場合は個別面談を行う。 ・2学期は全員を対象に個別面談を行う。
49	教職員による校内及び校門等における見守り活動の実施	・掃除時間や休み時間など、随時校庭及び校舎内を巡回する。 ・登下校時の見守り活動を実施する。
50	日頃からの家庭との連携及び情報交換の実施	・学校のホームページで取組を発信する。 ・保護者との定期的な連絡や懇談、家庭訪問を行う。

② いじめに関する情報共有

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
51	子ども支援コーディネーターを中心としたいじめの疑いを含めた様々な課題に関する情報の集約・情報共有	・ いじめ対策委員会を毎週1回開催する。(原則月曜日) ・ 事案が発生した場合は、臨時の対策委員会を開いて対応し、教員間の情報共有を図る。
52	いじめの疑いの段階での翌課業日中の教育委員会への速報	・ 事案を把握した時点で、情報共有・対応方針の検討を行い、担当者を決め迅速に対応・報告していく。 ・ 迅速に報告できる仕組みを組織としても検討し、迅速な報告につなげる。
53	保幼小中の連携や学年を超えた情報共有の推進	・ 保幼小中の連携を図る。 ・ 情報を伝えるとともに、入学後も継続的に連絡会を実施し、指導につなげていく。

(3) いじめへの対処

本校では、教職員がいじめと疑われる場面を発見・通報を受けた場合には、一人で抱え込むことなく、速やかにいじめ対策委員会を中心とした組織で対応をします。被害を受けた児童を守り通すとともに、教育的見地から、毅然とした態度で加害児童を指導します。その際、謝罪や責任を形式的に問うことに主眼を置くのではなく、社会性の向上等、児童の人格の形成に主眼を置いた指導を進めます。

例えば、遊びや悪ふざけなど、いじめと疑われる行為を発見した場合、教職員はその場でその行為を止めます。また、児童や保護者から、「いじめではないか」と相談や訴えがあった場合には、真摯に傾聴し、被害を受けている児童や相談のあった児童の安全を確保します。

特に、インターネット上のいじめへの対応については、大津市および大津市教育委員会が作成している「インターネット上のいじめに関する対応マニュアル」に基づいて対応します。

いじめ対策委員会では、いじめの疑いがあった場合、直ちに情報を共有し、速やかに関係児童から事情を聴き取るなどして、いじめの事実の有無の確認を行います。事実確認の結果は、校長が責任を持って大津市教育委員会に報告するとともに、被害・加害児童の保護者に連絡します。

なお、児童生徒の生命・身体又は財産に重大な被害が生じる恐れがあるときや、いじめが犯罪行為として取り扱われるべきと認めるとき、もしくは、指導を行ってもいじめ行為が止まないときなど、学校がいじめられている児童生徒を徹底して守り通すために必要と判断する場合は、所轄警察署等関係機関や、心理や福祉等の専門家と相談し、連携して対処を進めます。

このため、すべての教員の間で、いじめを把握した場合の対処のあり方について共通理解を図るとともに、迅速かつ的確に対処できるよう、平素から関係機関との連携に努め、情報共有する体制を構築します。

については、上記のことに関して、本校では、以下のような取組を進めます。

① いじめの対処

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
54	「いじめ対策委員会」の開催を通じた組織的な対応	・ いじめの疑い事案が発見された場合は、直ちにいじめ対策委員会を開催し、事案の確認を行い、指導の方針、支援内容、役割分担等を決定し、子どもの関係性の作り直しに向け、指導・支援を行う。
55	いじめ事案の解決に向けた対応（被害の子どもへの支援・加害の子どもへの指導等）	・ 被害児童に寄り添い、複数による対応をする。 ・ 事後の様子を確認をする。
56	インターネット上のいじめへの対応	・ 加害児童への情報モラルに関する指導を行う。 ・ 被害、加害、関係者への家庭訪問をし、保護者とともに書き込みの削除などを行う。
57	重大ないじめ事案が発生した際のアンケートや聴き取りによる適切な調査の実施	・ 子どもにアンケート調査を実施する必要がある場合には、迅速に調査を実施し、個別面談を行うなど、いじめ事案の事実確認と実態の把握を行う。
58	いじめ事案に関する情報の適正な管理・保存	・ すぐに情報共有ができるように保管場所を全職員に周知する。 ・ 教職員間で適切な管理・保存方法や保存場所の共通理解を図りながら管理する。
59	いじめ事案が生じたときの保護者との連携	・ 事実確認を行い、児童や保護者の思いに寄り添って、学校としての指導方針を保護者に伝える。 ・ いじめの事象が見られなくなった後も、定期的に保護者と連絡を取り、連携を図る。

2 いじめ対策委員会の設置

本校では、いじめの防止等に関する措置を実効的に行うため、法第 22 条に規定される組織として「いじめ対策委員会」を常設します。その役割等については、以下のとおりとします。

(1) 役割

- ア) いじめの防止等の取組の年間計画を作成する
- イ) いじめの防止等の取組について、すべての教職員間で共通理解を図る
- ウ) いじめの防止等の取組の実施、進捗状況の確認を行う
- エ) 児童や保護者、地域に対し、いじめの防止等の取組についての情報発信やいじめに関する意識啓発のための取組を行う
- オ) いじめの疑いや児童の問題行動などに関する情報の収集と記録、共有を行う
- カ) いじめの疑いに関する情報があつた時には緊急会議を開催し、いじめの情報の迅速な共有を図り、教職員や関係のある児童等への事実関係の聴取、児童に対する支援・

- 指導の体制・対応方針の決定と保護者との連携等の対応を行う
- キ) いじめとして対応すべき事案か否かの判断を行う
- ク) 重大事態に係る調査の母体となり調査を行う
- ケ) P D C Aサイクルに基づき、毎年度、いじめの防止等の取組の検証を行うとともに、その結果等を勘案して、必要に応じて学校いじめ防止基本方針の見直しを行う

(2) 構成員

いじめ対策委員会の構成員は、管理職、教務主任、子ども支援コーディネーター、生徒指導主任、教育相談担当、養護教諭、スクールカウンセラーとします。

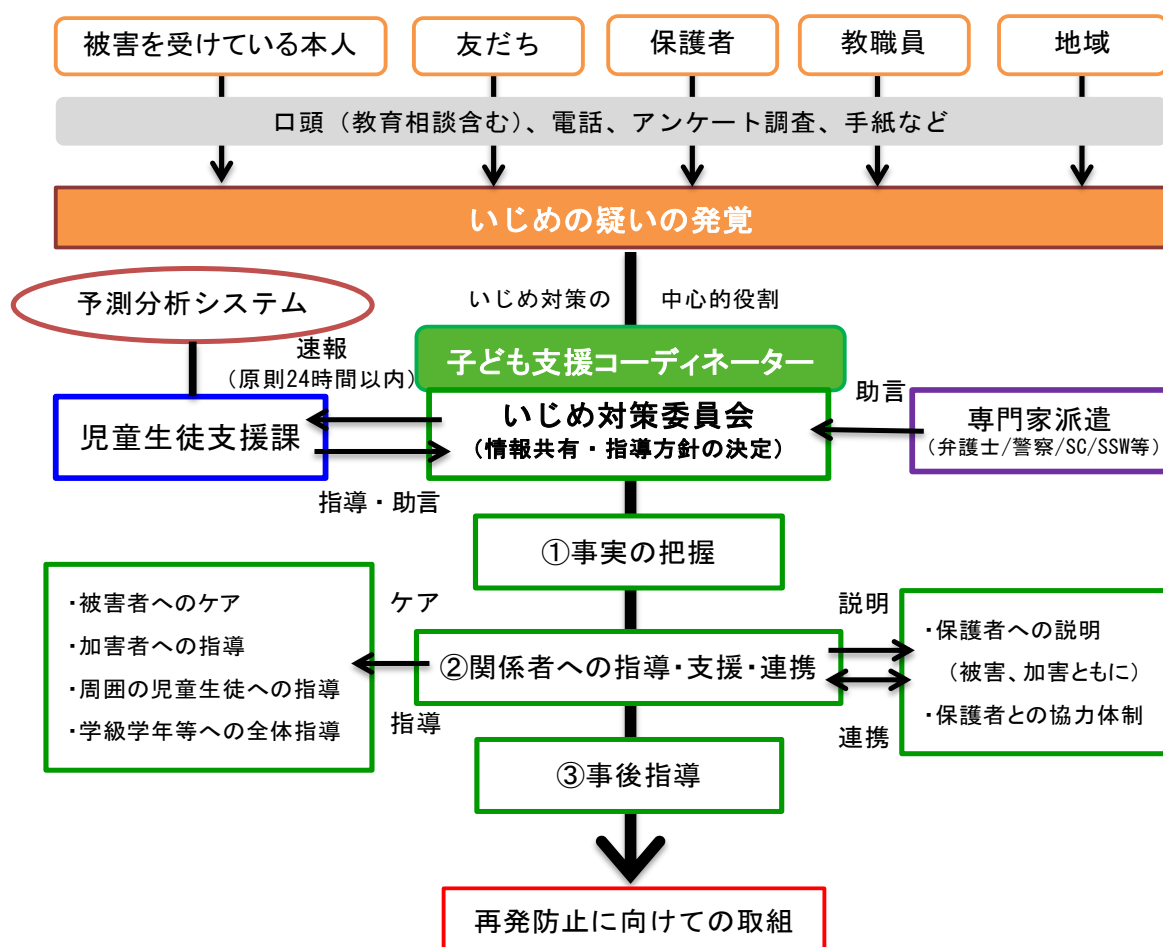
なお、個々の事案に応じて、関係の深い教職員を追加します。

また、事案の性質等、必要に応じて、心理や福祉の専門家、弁護士、医師、警察官（もしくは警察官ＯＢ）・教員経験者など外部専門家の参加を得ます。

(3) 関係する校内委員会等との連携

いじめの防止等の取組の実施に当たっては、生徒指導委員会、教育相談部会、人権教育部会等と役割分担し、連携して取り組みます。

(4) いじめ事案対応フロー図



(5) 学校のいじめ防止対策全般や基本方針の進捗状況の評価等を協議するため、「拡大いじめ対策委員会」を設置します。

その構成員は校長、教頭、教務主任、子ども支援コーディネーター、生徒指導主

任等の学校教職員の他、PTA会長、自治連合会会長、青少年育成学区民会議会長、主任児童委員等の学校関係者とします。

3 その他いじめの防止等のための対策に関する重要事項

(1) 基本方針、年間計画の見直し

具体的な施策ごとに設定した目標について、その進捗状況を定期的に確認し、目標の達成状況（活動実績）を自己評価し、その結果について年度末に大津市教育委員会へ報告しています。また、評価に際しては、目標の達成状況（活動実績）を評価するとともに、それらの取組がいじめ防止にどのような効果があったのかについて考察し、取組内容や方法の見直しを検討します。このような取組を通して、策定した学校基本方針や年間計画をPDCAサイクルに基づき、毎年度見直します。

(2) 基本方針、年間計画の公開・説明

策定した学校基本方針や年間計画は、学校のホームページなどで公開するとともに、年度当初に子どもや保護者、地域関係者にわかりやすく説明します。

4 いじめ防止等に向けた年間計画

月	活動内容・取組	備 考
4	職員会議〈児童生徒理解〉（①・②・③） 子どもを語る会（②・④） いじめ問題に関する校内研修会（①・②・③・④）	・「いじめ防止基本方針」など本校のいじめ防止対策についての共通理解をする。
5	保護者個別懇談会（④） 5・6年生『ホタルの学校』（①・④）	・『ホタルの学校』の講師の先生による地域や命を大切にすることについての授業（5・6年生対象）
6	いじめ防止啓発月間（①・④） 生活アンケート（②・③） 教育相談（②・③） 拡大いじめ対策委員会(学校協力者会議・学校運営協議会(④)) 教師用・いじめ問題への取り組みについての振り返り（①・②・③・④） 南郷スマイルボランティアによるいじめ防止のための啓発劇（①）	・学期に1回(その他必要があれば随時)生活アンケート調査を行う。回答内容を共有し、改善を図る。 ・年間3回、いじめ問題への取り組みについて振り返るとともに、組織としての改善を図る。
7	保護者学級懇談会（④）	
8	いじめ問題に関する校内研修会（①・②・③・④）	・重大事案に関わる事柄について研修し、共通理解をする。
9		

1 0	5、6年生携帯電話教室（①・②・③・④） いじめ防止啓発月間（①・④） 生活アンケート（②・③） 教育相談強化月間（②・③） いじめ防止啓発活動にかかる協議会（④） 南郷スマイルボランティアによるいじめ防止のための啓発劇（①）	・KDDI によるいじめ問題につながる携帯電話のマナー、モラルに関する授業（5、6年生対象） ・学期に1回（その他必要があれば随時）生活アンケート調査を行う。回答内容を共有し、改善を図る。 ・アンケート結果をもとに、一人ひとりとの教育相談をじっくり行う。気になる児童は優先して実施する。
1 1	専門家によるいじめ問題や人権教育等に係る授業（①・②・③・④） 拡大いじめ対策委員会（学校協力者会議・学校運営協議会（④）） 学習参観（道徳・人権教育（①・②・③・④）） 教師用・いじめ問題への取り組みについての振り返り（①・②・③・④）	・弁護士によるいじめ等に関する授業（5年生対象） ・専門家による多様性理解のための授業（6年生対象） ・年間3回、いじめ問題への取り組みについて振り返るとともに、組織としての改善を図る。
1 2	校内人権週間（①・②・③・④） スマイルデー（①・④） 保護者個別懇談会（④） いじめ防止啓発活動にかかる協議会（④）	・いじめに関わるポスターや標語を作成する。
1	いじめ防止啓発活動にかかる協議会（④）	
2	いじめ防止啓発月間（①・④） 子どもを語る会（②・④） いじめに特化したアンケート（②・③） 教育相談（②・③） 拡大いじめ対策委員会（学校運営協議会（④）） スマイルウィーク（①） 南郷スマイルボランティアによるいじめ防止のための啓発劇（①）	・学期に1回（その他必要があれば随時）生活アンケート調査を行う。2月はいじめに特化したアンケートを実施する。回答内容を共有し、改善を図る。 ・アンケートの記述等をもとに、気になる児童を優先して個別相談を行う。 ・年間3回、いじめ問題への取り組みについて振り返るとともに、組織としての改善を図る。

3	教師用・いじめ問題への取り組みについての振り返り (①・②・③・④)	
年間 を通じて	いじめ対策委員会 (①・②・③)	

※いじめの未然防止に関すること…①

いじめの早期発見に関すること…②

いじめの早期対応に関すること…③

いじめ防止に関する家庭・地域・関係機関等との連携に関すること…④